

タイトル

一畳から始まるコミュニティ

応募者

岩田翔士さん（愛知県、学生）

アイデアについて

①アイデアのタイトル

一畳から始まるコミュニティ

②アイデアの対象となるお寺の環境は？（例：過疎地・過密地・市街地・農村・漁村・島等）

市街地（なるべくお寺の多い地域の方が効果的）

③アイデアの対象となる人たちは？（例：地域の子どもたち、小さい子を持つお母さん、若者等）

限りません

④アイデアの概要（目的・方法・効果などを、200字程度でお書き下さい。）

現在、寺社・仏閣の維持に関する問題が起こりつつあるが、宗教に対する信仰心の薄れもその原因であると考えられる。これまで“習慣”として行われてきた寺社に関連する行事への関心の薄れ、地縁が無い地域での生活者が増加する中での寺社の存在など、寺社は日常生活から遠い存在となった。本提案は、お寺の空間を“畳一枚”で表現し、“畳一枚”のお寺空間を日常生活空間へ物理的に近づけることによって、人々の精神を改めてお寺へ向ける提案である。

⑤アイデアの内容（アイデアについてできるだけ詳しくお書き下さい。）

①お寺の畳を“一畳”街へ持ち出す

最初にやることは、“一畳でできること”です。

- ・バス停の待ち時間の座敷
- ・座ってお茶を飲む休憩スペース
- ・地域の特産物の販売
- ・お寺の紹介、お札やお守りの販売
- ・説法

この“一畳”には各々のお寺の属性（色）があります。
どの“一畳”に触れるかによって、街の人々のお寺に対する印象が変わります。
お寺の人が使っても

②畳を組み合わせる

日本の畳は優れた組み合わせのシステムを持っています。
二畳、三畳、四畳半、六畳、八畳と催しによって空間を変化させます。

- ・二畳で対面して話をする
- ・三畳でお茶会
- ・四畳半で食事
- ・六畳でお花
- ・八畳で琴の稽古

いくつかのお寺や、街の人々が協同で催しを行います。
一つのお寺は一畳しか持ち出してはならないため、必ず協同する必要があります。

③畳を広げる

畳を部屋ではなく、風景に溶け込むように広げます。

- ・大きく公園で広げてみんなで昼寝
- ・縦に長く繋げて畳の上を裸足で走る

ここでは、地域にある全てのお寺が力を合わせます。
地域のお祭や、イベントごとなどに畳を持ち込みます。

できることから始める

一畳という小さなスペースを共有することによって、街中にお寺のような空間をつくりだします。
たった一畳でも、繋げることでたくさんの可能性を生み出すことが出来ます。
地域の人達が、自分たちの地域のお寺について知ったり、良さを見つけることはもちろん、
お寺の人々が地域の良さ、地域の人について知るきっかけになります。

⑥添付資料（ここに記入しきれない内容、イラスト、写真、作品等の資料があれば別途添付して下さい。）

あり (イラスト) ・ なし

一畳から始まるコミュニティ

最初にやることは「一畳でできること」。

いくつかのお寺から持ち出された一畳が街と人をつなげる。

そしてそれは、地域のお寺について知ったり、良さを見つけるきっかけ、自分の住む街を知るきっかけとなる。



地域の特産物の販売



バス停



琴の稽古